

平成28年度第2回砺波市行政改革市民会議議録（要旨）

1 開催日 平成29年2月24日（金） 午後1時半～3時

2 場所 砺波市役所 本館3階 小ホール

3 出席者 <市民会議委員 13名>

飯田委員、上田委員、小竹委員、加藤委員、齊藤委員、島田委員、白山委員、杉本委員、高嶋委員、中嶋委員、野村敏夫委員、野村泰則委員、山森委員

<市当局・事務局 18名>

夏野市長、齊藤副市長、山本教育長、横山企画総務部長、池田福祉市民部長、牧野商工農林部長、大浦建設水道部長、竹林砺波総合病院事務局長、三部教育委員会事務局長、天野庄川支所長、島田企画調整課長、南財政課長、今井総務課長、小西総務課情報政策班長、二俣総務課行政係長、境総務課人事係長、篠島総務課行政係主査、久保総務課行政係主任

4 説明及び協議内容

- (1) 行政改革報告書及び行政改革推進計画について説明を行った。
- (2) 提案型事業評価対象事業について説明を行った。
- (3) 第2次砺波市総合計画について説明を行った。
- (4) (3)を踏まえて、意見交換を行った。

5 意見・協議の概要

(1) 行政改革報告書及び行政改革推進計画に関する意見・質問
特にご意見なし。

(2) 提案型事業評価対象事業に関する意見・質問
特にご意見なし。

(3) 第2次砺波市総合計画に関する意見・質問及び意見交換

【委員】

1 飯田委員（総合計画について）

総合計画はうまく方向性を決めているが、現実はその簡単にいくものではないと思う。二面性、つまり、中心市街地は人口が増える方向にあるが、同じ市の中でも、地方（里、山）の方はどうしても人口が減っていく。これをどうしていくのか。中心市街地にも地方にも同じような政策で果たして良いのだろうか。地方はどんどんコミュニティが崩壊していく。だから、行政には資料（情報）をもっと提供してほしい。そして、漠然と計画を進めるのではなく、優先順位をつけて進めてほしい。

2 上田委員（ふるさと教育について）

砺波市は県内でも元気のあるまちと言われているが、人口減少は進んでいる。これについて、10WAVEの中では、特に子育て、教育という項目がある。子育ての応援、若い子どもたちに将来砺波市に帰ってきたいと思ってもらう教育、帰ってこなければいけないと思える教育を取り入れていただきたい。そんなまちづくりを目指していただきたいと思います。

3 小竹委員（ごみ収集について）

総合計画の資料中、平成29年度は「特にここに力を入れていく」というのが分かればもっと良かった。

また、主婦の立場から、燃えないごみの分別については、もっとPR活動をしていただきたい。ホームページやケーブルテレビなどで放映されようとしているのだと思っているが、ホームページもケーブルテレビも自分のほうからアクセスしないと見られない。しかし、回覧板であれば必然的に見られるため、回覧板でしつこいくらいにPRしていただきたい。

4 加藤委員（城端線の活性化等について）

人口減少については色々と取り組んでおられると思う。小矢部市や南砺市は、移住した方へ100万円のお金を拠出しているが、人口が増えない。これはお金だけの問題ではないということ。近隣市町村はどこも同じような内容の人口減少対策ではないかと思われることから、砺波市だけの独自のアイデアを出していただければと思う。

次に、城端線の活性化については、これもよく取り組んでいることと思われるが、城端線に乗車しているのは学生くらい。かがやきに乗車して東京に行く際に城端線を利用する人が少ないのは、乗り換えが面倒だからである。私は飛行機を利用しているが、飛行機のほうが便利だからである。2,500円でタクシーで家まで迎えに来てくれて、また空港から2,500円で家まで送ってくれる。そういった面も含めて、皆さんにはもっと知恵を出していただければと思う。

5 齋藤委員（三世代同居について）

男女共同参画の推進の立場から、三世代同居について申し上げると、出席者の中で三世代同居をしておられる方は、奥様やお嫁さんに（家事、育児の面で）協力をしておられるか。三世代同居の推進にあたっては、そのあたりも考えてもらいたいと思っている。

6 島田委員（生活保護について）

先週、行政相談委員として中部管区の研修会に行ってきた。その際、観光パンフレットを提供して観光PRをしてきたが、すでにPRが行き届いており、皆さん砺波のチューリップのことを知っておられて、大変嬉しかった。

また、研修会の中では、生活保護についての事例研修があったが、富山県は一番生活保護世帯が少ないという点が紹介され、色んな面で行き届いていると感じた。色々なことを目にするにつけて、行政サイドが頑張っておられると嬉しく思った。

7 白山委員（子育て支援について）

こういう会議などを通して砺波市がつくりあげられていくのだなと思った。このことを踏まえて、今後市民の声として、また子を持つ親の声として、いろんな形で意見を述べさせていただきたいと思う。行政におかれても機会をとらえて市民の意見を聞いていただき、砺波のまちづくりに役立てていただきたい。私も協力していきたいと思う。

8 山森委員（行政関連会合への参加について）

昨年の女性議会に引き続き、行政の会合に参加し、行政全般について勉強することができた。行政はこういうことをしているのだなということがわかって、いい機会だった。

9 野村泰則委員（空き家対策について）

私の住んでいる野村島ではここ5年間で空き家というよりは空き屋敷が2件活用された。この事例で共通しているのは、小さい屋敷で平屋。ついては、空き家よりも空き屋敷のほうが案外チャンスがあるのかなと思っている。また、移住する人についても特徴がある。野村島で生まれた女性が移住される。野村島で生まれ育った後、お嫁に行った方が自分の生まれ在所に戻ってきて空き屋敷に入るということがある。2件ともそうであった。少子化のため、親が娘を近くに置いておきたいという思いからだそうだ。親が娘を呼んできて、娘さん夫婦が空き屋敷に住むというケースがあるということだ。

10 野村敏夫委員（自主防災組織について）

ほとんどの自主防災組織は自治会関係の役員で構成されていると思われるが、果たして何かあったときに状況を把握して率先して対応できるのかどうか。本当にいざというときに活動できる組織にしておかないといけないのではないか。

11 中嶋委員（若い世代の市政参加について）

若い世代がいかに自分のこととして受け止め、取り組むことが大事だと思う。色々な会合に参加するにつけ、出席者は年齢層の高い方が多く、30代、40代の若い世代が少ない。若い人にいかにやらなきゃいけないと思ってもらうかが大事だと思う。

12 高嶋委員（諸施策に係る提案について）

自分なりの思いで市の行政に関わりたくと参画した。ただ、イメージ的にはもう少し色々なアイデアを出す場があってもいいのかなと思った。ある程度ルールが引かれた計画書に助言をするというスタイルは、私としてはニュアンス的にちょっとずれていた。また、会議のうち発言する機会が全体的にやや少なかった感じがした。

私の方で思っているもののうち、まず防災については、先般から地震や災害が色々あった。その災害の中で問題があったのは、電柱が倒れて交通障害を起こすということ。これを踏まえて、無電柱化という対策をとる必要があると思われるが、砺波市はそういうことを考えていないのか。高岡市の山町筋では、無電柱化が進んでいてすっきりしている。砺波市でも夜高祭りがあることから、電柱が少しでもないようになれば、非常に良いと思う。

次に、金沢市では10年前から自転車の走行ラインを設置・絵表示して、交通事故が半分以下になった。自転車は必ず1列で左側走行することで、交差点で自動車との接触事故が起こる確率がとても下がる。こういう他市町村のいいところを採用することが必要。

次に、射水市などでは映画をよく地元でつくっている。それが大きなPR効果を描いて、集客にもなっている。砺波市はそういうことができないのか。例えば、チューリップなら水野さん、加越線なら大矢さんといった具合に素晴らしい偉人の方がおられる。そういう方を題材にして、作家さんに書いてもらうという働きかけがあってもいいのではないかと思う。

最後に、千光寺というのはかなり古いお寺であるが、砺波市はあまり観光資源として活用していないのではないかと思う。他にも色々注目するようなものがあると思われるので、これからも観光に力を入れて、収益をはかるようなことを考えてもらったらいい。

1.3 杉本委員（チューリップフェア写生画展について）

チューリップフェア写生画展事業については、私も小さい頃から参加していた。ぜひ必須の課外授業として続けていただきたい。

【市長】

1 飯田委員のご意見について（総合計画）

総合計画がよく総覧的だと言われるが、そもそも総合計画とは総合的なもの。それに優先順位を付けたりメリハリをつけたりしたものが、10WAVEというもので、10個の重点事項を定めたものである。

今年は何をやるのか分からないというご意見もあったが、それは「予算」でお示しをする。予算の中に10WAVEのうち、こういうことをやるということをしっかり発表していきたいと思う。

次に、人口対策であるが、特に人口の不均一に対する認識について。砺波市公共施設等総合管理計画をつくり、前回の会議でもご説明したが、今のままの人口規模やお金の感覚で今の公共施設を全部守れるかと言われると、さすがにそれは難しい。砺波市の場合、面積ベースだが、約2割は減らさないといけない。それこそ優先順位をどうつけるか。それから多機能化。一つの建物に複数の機能をつけるやり方。何らかの拠点を残したいとは思いますが、21地区すべてに全部の公共施設を残すというのはさすがに厳しくなっている。ブロック単位であったり、小学校区単位であったり、智慧を出していく必要がある。

2 上田委員のご意見について（ふるさと教育）

砺波市のふるさと教育は、他市と比べても特徴的だと思う。例えば、案外地元のことをよく知っている子が多いと思う。そういう点では、先生方は大変だと思うが、引き続きお願いしていきたい。またもう一つの特徴としては、地域の方が色々学校に関心を持ってきていること。こういう伝統も引き続きお願いしていきたい。

次に、砺波に帰ってくるという教育についてであるが、私もまさにその通りであると思う。ただ、富山市や高岡市くらいはそこに帰ってきて住むとともに働くこともできるが、砺波市の場合ほとんかく帰ってきてくれと。今はこんなに交通の便がいいのであるから、金沢でも

富山でも通えるだろう。ただ住むのはここにしてもらいたい。そういった思いでやろうと思っている。金をまいた政策でもって戻ってきても、金で来たひとはまた金で出て行ってしまうということであるから、そういうレベルの争いはやりたくないと思っている。

3 小竹委員のご意見について（ごみ収集）

先日、パッカー車が焼けてしまったが、やはりいい加減に袋の中にスプレー缶とかライターとか入れていることが原因と思われる。本当に危険であるし、それをリサイクルすれば金属リサイクルということになるので、今、考えているのは、燃えないごみの袋をやめようということ。燃えるごみと資源ごみに整理する。これは旧庄川エリアではすでに取り組んでいる。砺波市のリサイクル率は悪いほうなので、これは地元の方々としっかり協力して取り組んでまいりたいと思っている。

また、ホームページや広報でも周知するうえ、おっしゃったように回覧板での周知も図りたいと考えている。また、職員による説明会をやろうと思っているので、その際は、ご協力をいただきたいと思っている。

4 加藤委員のご意見について（城端線の活性化等）

私は、東京から新幹線で帰るときは城端線との接続のいいタイプに乗ってくるようにしているが、仕事の関係などで誰しものがそうできるわけではない。また、砺波市や高岡市、魚津市などでは富山空港までタクシーで2,500円で行ける。県は空港を守らなければならないということでそういう施策もやっている。飛行機も新幹線のおかげで安くなっており、トータルで考えるとけっこう安くなっている。私も飛行機に乗ることはあるが、新幹線に乗る際は、できるだけ城端線に乗るようにしている。新幹線との接続については引き続きしつこく要望していこうと思っている。ただ、城端線の難しいところは、新幹線との接続と高岡駅でのあいの風鉄道との接続との二つを考慮しなくてはならないという点もあり、抜本的な解決は望めないが少しの改善、例えば、たった2分で乗れないことがある。そういう点はしつこく要望していこうと思っている。

5 齊藤委員のご意見について（三世代同居）

三世代同居推進事業については、2年前から始めたところであるが、他市町村から注目された。お嫁さんを助けてあげてほしいというご意見もあったが、たまに離れたいこともあるのではないかと。そういうために、お祖父ちゃんお祖母ちゃんのショートステイの回数を増やすとか、お祖父ちゃんお祖母ちゃんに温泉に行ってもらおうとかすればというご意見もあったので、そういうメニューも用意した。三世代同居はいいこともあれば大変なこともあると思われるが、そういうところにも光を当てているので、ご活用いただきたい。

そして、今回は近居まで要件を広げた。今までは同じ家か同じ敷地ということにしていたが、今回は同じ地区、例えば中野地区なら中野地区は全部OK。さらに、例えば中野地区に住んでいた方が大門に家を建てた場合など、それほど遠く離れていない場合、直線距離で500m以内もOKとした。あわせて、庄川地区と庄東地区はその広域の地区でOK。例えば、庄川地区なら庄川地区全部ということでもオールOKとした。

6 島田委員のご意見について（生活保護）

砺波市の生活保護世帯は約50世帯ほどで、かなり少ないほうだと思うが、少ないからいいというものでもないと思っている。実際は親戚が助けたりしていることもあるかもしれない。生活保護を受けられるべき方については当然生活保護を受けられるよう、啓発を進めていきたい。

また、今やっているのは「そこ（生活保護）にいかない」ようにするための総合的な窓口。頑張れるうちは頑張れるようなサポート体制をつくったので、早めの支援をしていきたい。

7 白山委員のご意見について（子育て支援）

白山委員には子を持つ親として引き続きよろしくお願ひしたいと思う。子育て支援は、子ども対策より、親対策のほうが大変。子どもだけみてもだめなので、家庭全体をみる政策をしていきたい。

8 山森委員のご意見について（行政関連会合への参加）

山森委員は女性議会の議員でもありましたが、この会議においても勉強していただいたというのはありがたいことなので、今後もまた幅広くご意見をいただければと思う。

9 野村泰則委員のご意見について（空き家対策）

空き家については、「出物」がない。買いたいとか借りたいとかというお声はいっぱいあるが出物が足りていない。市では現在、各地区に空き家のコーディネーターをお願いし、空き家の発掘に向けて取り組んでいる。野村泰則委員からは手頃なケースをご紹介いただいたが、中には、富山型デイサービスをやりたいとか大きなアトリエをやりたいとかというご意見もあるので、そういうことも含めて啓発を進めていきたい。空き家は深刻な問題であり、砺波市は他のまちに先駆けて空き家条例をつくったという思いもあるので、皆さんのご協力をよろしくお願ひしたいと思っている。

10 野村敏夫委員のご意見について（自主防災組織）

現実的には色々なパターンがあると思われるが、地域によっては、日中地元において対応できるというのは、そういう役員の方というケースがある。それは消防団もそう。消防団では「機能別団員」というものをお願いしている。それは、フルの消防団員ではないが、地元でずっといる方で、かつてのOBであったり、心得のある方である。実際に動ける方で構成するという制度を活用している。

また、自主防災組織については、新年度の予算で、各地区に防災行政無線の整備を進めようと考えており、地区のポイントとなる方に持ってもらうことを予定している。

11 中嶋委員のご意見について（若い世代の市政参加）

若い世代の方々がもっと活躍しやすいようにしたいという思いは我々も同じであり、例えば、親会議と若者会議に分けるなどがある。総合計画の策定の際は、そのように若い世代の方で集まってもらった。そういった手法を取り入れていきたいと思う。ただ、公募してもな

かなか若い世代の応募がないので、逆に皆様からもお願いしていただきたい。会議の開催を夜半にしたりと参加しやすい工夫や努力をしていきたい。

1 2 高嶋委員のご意見について（諸施策に係る提案）

この会議はもともと施策を決めていくという目的のものではないため、高嶋委員の思い描かれていたイメージと違って、アイデアを出す機会があまりなかったという点については、こちらのお願いの仕方と齟齬があったのかもしれない。

（無電柱化）

残念ながら、砺波市では無電柱化の該当がない。設置は文化系エリアに限られるし、まず電力会社がOKと言ってくれない。ただ、今回（一つだけ）お願いしているのは、新しい図書館のところ。あそこにも電柱があり、せっかくの図書館の前に電柱があるのは困るので、図書館の後ろに設置してもらえないかお願いしている。

（観光）

観光についても色々と手を打っている。間違いなく観光客は増えている。例えばチューリップ四季彩館には年間一万人、庄川遊覧船にも同じくらいの数のお客さんが来ている。観光は拠点ではなく、ネットワークが大事なので、例えば午前中に立山黒部アルペンルートで雪を見て、午後にチューリップを見る。新幹線開業後は、庄川温泉では3割、観光客が増えている。2年目も落ちていないとのことである。ところで、先般発表されたミシュランガイドには富山県からは6つ選ばれたが、そのうち4つが庄川の関係。これはすごいことなので、もっとPRしていきたいと思う。

（映画）

映画については、テーマをもってやるというのも大事であるが、ロケーションで使ってもらいたいと思っている。例えば田んぼ。田んぼはいくらでもあるが、綺麗な田んぼはそう無い。そこへいくと、種もみの田は美しい。映画制作側には例えばこういうのが欲しいというのがある。そういうのを富山県の映画フィルムコミッションにアピールしながらやっていきたいと思っている。先ほどご紹介いただいた映画よりも、最近は特別な「シーン」に撮影地が使われることがある。地元の方が普通と思っている場所が案外撮影に向いていることがある。ぜひ、ここぞという場所があれば、商工観光課のほうへご提案いただきたいと思う。

1 3 杉本委員のご意見について（諸施策に係る提案）

全学年対象のものを特定の学年に絞ってできないかなと考えている。学校の先生の管理体制というものも必要となってくると思われるので、現在は調整中ということでもよろしく願いたい。

総括

市としては色々な思いを聞きながら、施策を進めさせていただきたいと考えているため、この会議が終わっても、引き続き、様々なお立場からご意見を賜りたいと思っている。